令和４年度　福島県立郡山東高等学校　　令和４年７月１５日
進路だより 5号　　発行　郡山東高校進路指導部

「共通テスト」まで180日

君たちなら大丈夫だ!!

目標を下げず 最大限の努力をせよ

―『３年夏休み』の頑張りで未来を変える！ ―

１月の共通テストまで残り半年。ついに、本気で大学受験を目指す者にとって、最重要ポイントとなる「３年夏休み」が始まります！そして、この休みは、弱点を強化し、基礎・基本を定着させるために、しっかり時間をかけることができる「最大」かつ「最後」の大チャンスです。

３年生の中には、しだいに焦りや不安を感じている人が増えてきていると思われます。大学受験という、これまでに経験したことのないことに向かっていくのですから、それは当然のことです。大学受験を経験した人なら誰もが通る道で、先生方もみな同じような経験があります。しかし、今は慌てることなく、じっと我慢する時です。まずは、冷静に自分の頭の中を整理してみましょう。そして、自分の課題を明確にしていくことが大事です。そして、それらの課題を１つずつ着実に解決していくのです。東高生は、真面目で誠実な人柄に加え、音楽祭や体育大会等の学校行事や部活動の場面では、爆発的に力を発揮することができる人がたくさんいます。受験勉強だって東高生なら大丈夫です。過剰に恐れる必要はありません。今は、安易に目標を下げることなく、強い意志をもって最大限の努力をしてください。そして、自分の未来を、自分の力で切り開いていってくれることを期待します。

特集1　貴重な「３年夏休み」をどう使うのか？

自己管理のできる者が受験を制す

しだいに家庭での勉強量も増えてきたことと思います。しかし、まだ十分とは言えません。夏休みは、何よりも勉強を優先し１時間でも多くの勉強時間を確保するのが受験生の鉄則です。受験生として、今、何をすべきかを意識し、優先順位を考えて時間を使うべきです。最終的に、自分の進路目標を達成できるのは「自己管理」のできる人です。この夏休みから自分自身を変えていきましょう。

1　十分な勉強の「量」を確保し勉強の「質」を上げる

１日２４時間のうち、睡眠、食事など、人間生活で欠かすことができない時間を除いて、どれだけの時間を勉強に当てられるかがポイントとなります。勉強時間が少ないと、それだけで勉強の範囲も狭く、深い内容までカバーすることができません。現在の入試で問われる「思考力・読解力・表現力」の養成に向けた質の高い勉強をしようと考えるならば、自然に勉強量は増えていくし、勉強量が増えていかなければ質を高めることはできません。表面的で単純な丸暗記に終始しては絶対にダメです。

2　大事なのは「バランス」と「基礎基本」の定着を目指すこと

本番の入試で合否を分けるのは　「基本問題の正解率」と「総合力」

始業日までに、３年７月までの一通りの学習内容の「基礎・基本」をしっかり定着させておくことが必要です。この時間に、**バランスよく、すべての科目・分野を一通り復習すべきです。**まとまって復習の時間を取れるのは、この夏休みが最後だということを強調しておきたいと思います。

（1）　模試問題を解き直して効率よく復習する

過去の模試の問題は最高の教材であり、それらの復習は、最も効果的な勉強法の１つです。さらに、その問題に関連する事項の復習も行えば、かなりの勉強量になります。模試は、幅広い範囲から各単元の重要な部分を厳選して出題しています。それゆえ、模試の復習は、全科目の単元ごとの重要事項を、短時間に効率よく復習するには最適な方法なのです。

（2）　英数国＋理社の追い込みを開始する

最終的な合否は全科目の合計点で決まるため、「総合力」の強化が重要です。特定の教科・科目や分野に偏ることなく、「教科（科目）間」と「科目内の分野間」のバランスを考えた幅広い勉強が必要です。また、夏休みからの自宅学習では、英数国に加えて、「理科・社会」の追い込みを開始すべきです。特に、理系の理科（２科目）と文系の社会（２科目）については、「共通テスト」だけでなく、「国公立二次試験」や「私大入試」でも受験科目になり配点も大きくなるので、重要度が高くなります。今後、最も、成績の上昇が期待される科目でもあるので、夏から勉強を開始しましょう。

3　『赤本（入試過去問）』で到達目標を確認しておく

早期に志望校の「赤本」を見て、過去の出題内容を確認しましょう。**具体的な出題形式、難易度、分量を確認するとともに、将来的に自分の到達すべき学力レベルと現在の実力との「差」を正しく認識しておくが目的です。**受験生はその「差」を埋めるための勉強をするのです。また、入試でどんな学力が求められているのかが分かれば、今後の勉強の具体的な目標が明確になるでしょう。

今年もやるぞー！夏休み恒例イベント

３学年対象・「古い赤本」無料配布会

“赤フェス２０２２”

- 日　時：　８月１日（月）　１２：３０～１３：３０（雨天の場合は順延）
- 場　所：　生徒昇降口前の広場
- 配布物：　２０１７年版の「赤本」等の大学入試過去問集

今年も、進路指導費で購入した赤本等の大学入試過去問集の中で古くなって処分するものを、３学年を対象に無料で配布します。夏季課外（後半）期間の８月１日の３校時終了後に実施します。３年生の皆さん、ぜひ、志望校の赤本を手に入れ、モチベーションを上げましょう。

4 志望校の選考を本格的に始める

（1） 現時点で「第一志望」を変える必要はない

現段階で、第１志望の大学を変更する必要はありません。もちろん、受験生としては自分の実力を自覚することは重要です。しかし、安易に妥協して目標を下げてしまっては、かえって、今後の勉強へのモチベーションを下げてしまうことにつながりかねません。むしろ、今は、自分の「第１志望」を大事にし、その思いをエネルギーに変えて勉強に打ち込んだ方が、より効果的ではないでしょうか。

（2） 国公立・私立ともに複数の「出願パターン」を作成する

１２月の三者面談では、国公立大志望者に対しては、共通テストの得点等に応じた出願先の組合せのパターン（「前期日程」＋「後期・中期日程」）を３つ以上、設定することを促します。そのためには、あらかじめ、現在の第１志望以外にも、難易度の異なる複数の大学（国公立大＋私立大）の学習内容や入試方法を確認し、出願先の候補をリストアップしておく必要があります。

私立大志望者についても同様です。難易度の異なる複数の出願先を検討しておくべきです。また、同一の大学でも、さまざまな受験方式が存在しますから、最新の「実施要項」での確認が必要です。

そして、９月以降の模試では、それらの大学についての合格判定を確認し、１２月までには最終的な出願校の絞り込みをしていくことになります。

（3） 最新版「2023年 募集要項」で情報を入手する

受験科目・配点等の入試情報＋「学費・入学金」も確認する

３年生が受験するのは、「令和５年度（２０２３年度）入試」です。今年度も、国公立、私立ともに、学部・学科の改組や入試科目の変更が行われる大学があります。各自、志望する各大学が公式に発表している最新情報を確認しておきましょう。また、入学金や授業料等の学費に関しても、しっかり調べて、保護者に理解を求めるとともに、計画的に準備をしていただくことが必要です。

特集2 ２０２２年大学入試の分析結果報告

全国の高校の入試結果をもとにした２０２２年度入試の分析結果が発表され、実態が明らかになってきました。以下は、ベネッセ主催の「２０２２年度入試結果研究会」での分析結果を基にしてまとめたものになります。

1 全体概況

① 国公立・私立ともに志願者数が増・「理系人気の傾向」

国公立大の志願者数を見ると、語学系統、国際関係学系統、薬学系統、理学系統、農・水産学系統などでの増加が目立っています。コロナ禍の入試で減少傾向が続いていた語学系統、国際関係学系統では人気回復が見られましたが、コロナ禍以前の水準までは戻っていません。医療系の人気は継続しています。全体の志願者数は増加しましたが、共通テスト導入等による安全志向が緩和した結果のようです。

私立大の志願者数を見ると、法学系統、国際関係学系統、歯学系統、薬学系統、工学系等、農・水産学系統などで増加が目立っています。私大全体の志願者数はやや増加していますが、主に、理系の学部系統での志願者増加によるものが大きいようです。

② 国公立大後期日程の「欠席率」が連続上昇 ６２.９％！

国公立大の「後期日程の欠席率」は６２．９％と、１０年連続で前年を上回っています。２０２０入試を境に欠席率が大きく上昇して、６０％を超える状況が継続していますが、各大学での「実質倍率」は低下し、中には１倍台という募集単位も増えてきています。ゆえに、国公立大志望者は、前期日程で不合格となってもあきらめず、後期日程まで受験を続ければ、合格のチャンスが広がるのです。

③ 私立大全体の志願者数は下げ止まり 合格者数は増加

私立大学の志願者数は、２０２０年度、２０２１年と連続して大幅な減少が続いていましたが、２０２２年度は下げ止まりを見せました。一方、合格者数は増加傾向が続き、実質倍率が低下した大学が多く見られた点が特徴的です。入試方式別にみると、一般方式、共通テスト利用方式ともに、合格者数の増加と実質倍率の低下が目立っています。また、学校推薦型選抜でも同様の傾向が見られます。二次二期においては、志願者数、合格者数がともに減少しており、国公立大の後期日程と同様に、最後まで受験を続ける受験生が少なくなってきているものと考えられます。

④ 総合型・学校推薦型選抜の合格者の増加傾向続く

国公立大、私立大ともに、「総合型選抜」による合格者数が増加しました。特に、私立大では、募集人員や志願者数の変化が少ない中で、合格者の増加が顕著になっていて、実質倍率の低下が起こっています。また、共通テスト導入以降、共通テストで学力を問う方向性が示され、共通テストを利用した学校推薦型・総合型選抜の拡大が継続しています。

2 2022年度「共通テスト」の全体集計結果

文・理系ともに平均点が大幅に低下↓ 高得点者も減少

① ５教科総合９００点の平均点は低下

文系：５０８点（－４４点） 理系：５１３点（－５９点）

５教科総合（９００点満点）の平均点は、文系が５０８点（得点率約５６．４％）、理系が５１３点（得点率５７．０％）と、どちらも、前年の第１回共通テストと比較すると、文系では－４４点、理系は－５９点と、大きく低下しました。また、７０％以上の高得点者の人数もかなり減少しています。

② 数学・理科など多くの科目で「過去最低レベル」の平均点

特に 数学ⅠA（－１９．７点） 数学ⅡB（－１６．９点） 生物（－２３．８点）

化学（－１０．０点） 日本史B（－１１．５点） の平均点低下の影響が大

③ 国公立大の二次出願先決定に大きな影響が見られた

本校生の国公立大入試でも平均点下落の影響を受けました。出願先決定の段階で出願自体を取りやめたり、出願したにもかかわらず欠席をしたりした人が出ました。結果的に、各大学で、例年よりかなり低いラインで合格者が出ています。もし、最後まで継続して受験していれば合格できたのではと思われる人も多数いました。やはり、最後まであきらめない姿勢が大事でした。現在の本校の課題の１つです。